

# ヘーゲル日本語文献目録

(2020 年)

日本ヘーゲル学会文献資料委員会

嶺岸佑亮編

## 凡 例

1. この文献目録は 2020 年に日本で公表された、ヘーゲルに関する主な文献を可能な限り網羅的に収集しており、日本ヘーゲル学会文献資料委員会「ヘーゲル日本語文献目録 (2019 年)」の続篇である。
2. 文献の配列は次のようになっている。I ヘーゲル自身の著作の日本語訳、II ヘーゲルに関する研究文献、III ヘーゲルに関する研究文献の書評、IV ヘーゲル研究の動向紹介、V ヘーゲルに関する文献目録、VI ヘーゲルに関する研究資料、VII ヘーゲルに関する研究発表。さらに II に関しては、A 研究書、B 雑誌・紀要および論文集掲載論文、C 外国語研究書・論文の日本語訳の順で三つに区分した。
3. 上記の各分野における文献は著者名の五十音順で配列してある。
4. 各文献のデータ項目は、単行本に関しては、著者名（または訳者名）、題名、出版社の名称、刊行年の順で記載されており、雑誌・紀要等掲載論文に関しては、著者名、論文の題目、掲載雑誌の名称、巻数、号数、刊行年、掲載頁の順で記載されている。巻数・号数に関しては、例えば 15 巻 4 号であれば、15(4)と表記した。
5. ヘーゲルに関するものであっても、随筆類、また事典の項目や哲学史関連の著作に含まれる章節、学会発表要旨・レジュメ、新聞記事等は情報収集が困難なため掲載を割愛した場合がある。
6. 巻号表記中の = の後の数字は通号を示す。

### I ヘーゲルの著作の日本語訳

G.W.F. ヘーゲル、ヘーゲル全集 第 3 巻 イェーナ期批判論稿(田端信廣責任編集、海老澤善一・久保陽一・栗原隆・濱良祐・松岡健一郎訳)、知泉書館、2020

G.W.F. ヘーゲル、ヘーゲル全集 第 10 巻 1 『論理学』 客観的論理学——存在論 (第 1 版、1812) (久保陽一責任編集、飯泉佑介・岡崎秀二郎・三重野清顕訳)、知泉書館、2020

G.W.F. ヘーゲル、ヘーゲル全集 第 15 巻 自筆講義録 I(1816-31) (小林亜津子・山口誠一責任編集、下田和宣・鈴木覚・嶺岸佑亮訳)、知泉書館、2020

G.W.F. ヘーゲル、ヘーゲル 最後の「法の哲学」講義(1831)—— シュトラウス手稿(尼寺義弘訳)、阪南論集. 人文・自然科学編 55(2)、2020、pp.151-159

G. W. F. ヘーゲル、『精神現象学』 饒舌訳の試み(6)(原崎道彦訳)、高知大学教育学部研究報告、80、2020、pp.1-13

## II ヘーゲルに関する研究文献

### A 研究書

黒田寛一、物質の弁証法 ヘーゲルとマルクス——技術論と史的唯物論・序説(黒田寛一著作集 第1巻)、KK 書房、2020

竹田青嗣・西研、超解説! はじめてのヘーゲル『法の哲学』(講談社現代新書 2600)、講談社、2020

中井浩一、ヘーゲル哲学の読み方——発展の立場から、自然と人間と労働を考える、社会評論社、2020

南郷継正、ヘーゲル哲学・論理学 「学の体系講義・新世紀編」(『南郷継正武道哲学著作・講義全集』第3巻)、現代社、2020

原田哲史、19世紀前半のドイツ経済思想——ドイツ古典派、ロマン主義、フリードリヒ・リスト(MINERVA 人文・社会科学叢書 242、関西学院大学経済学研究叢書 第35編)、ミネルヴァ書房、2020

三浦信孝、鷲巣力編、加藤周一を21世紀に引き継ぐために——加藤周一生誕百年記念国際シンポジウム講演録、水声社、2020

悠季真理、哲学・論理学研究 第2巻(現代社白鳳選書 110)、現代社、2020

### B 雑誌・紀要および論文集掲載論文

朝倉友海、スピノザ・ヘーゲル関係再考——数理思想的観点から(特集号 創立10周年記念・東京大会 記念シンポジウム「いま倫理(エティカ)とはなにか スピノザを考える」)、京都ユダヤ思想学会編『京都ユダヤ思想』、11(2)、2020、pp.4-26

飯泉佑介、演繹と経験——イェナ時代初期のヘーゲルによるカント受容の一側面、哲学会編『哲学雑誌』、134(807)、2020、pp.123-140

池松辰男、ヘーゲルの「良心」概念における「内面」の意味とその射程、東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室編『倫理学紀要』、27、2020、pp.75-101

池松辰男、意識の構造とその背後——現代実在論の課題とヘーゲル主観的精神/客観的精神の哲学の射程(シンポジウム ドイツ観念論と現代実在論)、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.48-59

伊坂青司、ヘーゲル「世界史の哲学講義」研究の新段階——新版と旧版を比較して、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.24-34

石川伊織、ヘーゲルと二人のマリア、国際地域研究学会編『Journal of international studies

and regional development』、11、2020、pp.17-30

岩田健佑、ヘーゲル「芸術哲学講義」における近代芸術の客観性 —— ベルリン後期の論考における想像力と実体的本質としての感覚、美学会編『美学』、71(1)=256、2020、pp.1-12

入江祐加、ディルタイにおける歴史的思考の創造性 —— ディルタイのヘーゲル批判をめぐる、関西倫理学会編『倫理学研究』、50、2020、pp.99-112

大西正人、分析的ヘーゲル主義とヘーゲルの目的論、ヘーゲル論理学研究会編『ヘーゲル論理学研究』、26、2020、pp.4-6

岡崎龍、近代理性の再審 ヘーゲルの陶冶=疎外論批判、『唯物論』、94、2020、pp.84-101

冲永宜司、私は有り、私は無いこと —— 意識と実在をめぐるヘーゲルと W・ジェイムズ、D・ハーディングの見解から、『帝京大学学修・研究支援センター論集』 = Teikyo journal of Center for Active Engagement and Student Learning、11、2020、pp.1-26

加藤尚武、悟性批判 —— ヘーゲル「弁証法」の全用語例の研究、ヘーゲル論理学研究会編『ヘーゲル論理学研究』、26、2020、pp.7-46

川口浩一、ヘーゲル学派における帰属論 —— Hugo Halschner を中心として (山田道郎教授古稀記念論文集)、明治大学法律研究所編『法律論叢』、93(2・3)、2020、pp.83-105

久富峻介、ヘーゲル『精神現象学』の承認論における言語の特性 —— イェーナ期体系構想との比較に基づく考察、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.126-142

倉田貢、ヘーゲル『論理の学』の考察 —— 「弁証法」試論、『東日本国際大学研究紀要』、25(1)=34、2020、pp.83-93

栗原隆、観念の連合と知力の井泉 —— ヘーゲル『精神哲学』の枢軸、新潟大学大学院現代社会文化研究科比較宗教思想研究プロジェクト編『比較宗教思想研究』、20、2020、pp.1-22

栗原隆、青年の出現と世界との疎隔 —— ヘーゲル『精神哲学』における世代論の展開、東北大学哲学研究会編『思索』、53、2020、pp.121-143

小井沼広嗣、否定性を介した《相互主観性》の生成過程 —— ヘーゲル『精神現象学』における「自己意識」章の意識経験、『アジア太平洋レビュー』、17、2020、pp.18-33

小島優子、ヘーゲル哲学における生と死の継承 —— 『精神現象学』と『法哲学』を中心に、『高知大学学術研究報告』、69、2020、pp.27-36

酒井健太郎、無意味なさえずりからカテゴリーへ —— 『分析論後書』第1巻第19章-第23章におけるアリストテレスの方法論的態度 (シンポジウム カテゴリー論としてのヘーゲル論理学)、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.99-110

島崎隆、マルクスによるヘーゲル哲学批判の再読(下の1)、季報『唯物論研究』刊行会編『季報唯物論研究』、150、2020、pp.172-181

島崎隆、マルクスによるヘーゲル哲学批判の再読(完)、季報『唯物論研究』刊行会編『季

報唯物論研究』、151、2020、pp.114-123

下田和宣、ヘーゲル絶対精神の哲学と現代実在論 —— あるいは現代の「ポスト・カント的」ヤコービ主義について（シンポジウム ドイツ観念論と現代実在論）、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.60-72

杉田孝夫、コロナと格差の時代によみがえるヘーゲル、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.4-8

高橋一行、ヘーゲルの身体論、『政経論叢』、88(1・2)、2020、pp.99-128

高山守、国家の自由と個人の自由 —— ヘーゲルの自由概念をめぐって（特集 高山守先生退職記念）、東洋大学国際哲学研究センター運営委員会編『国際哲学研究』、9、2020、pp.9-18

田淵舜也、南原繁の田辺元批判とその影響 —— ヘーゲル的カント主義者とカント的ヘーゲル主義者、『比較思想研究』、47、2020、pp.88-95

徳増多加志、ヘーゲル『法の哲学』における法と不法の学的扱い方 —— 刑罰の哲学的解明、鎌倉女子大学紀要編集委員会編『鎌倉女子大学紀要』、27、2020、pp.21-36

南郷継正、哲学者はヘーゲル哲学の理念的概念である「思弁」とは何か、「形而上学」とは何かを「哲学 学の体系」中の学的概念として問うべきである、日本弁証法論理学研究会編『学城 —— 学問への道』、19、2020、pp.1-6

南郷継正、『ヘーゲル哲学・論理学〔学の体系講義・新世紀編〕』（『南郷継正武道哲学著作・講義全集』第3巻）余録、日本弁証法論理学研究会編『学城 —— 学問への道』、19、2020、pp.11-26

西方守、テオドール・リットの弁証法 —— 『ヘーゲル』を中心にして、『石巻専修大学研究紀要』、31、2020、pp.23-35

福田静夫、「神の御国」理念とベルン期のヘーゲル(下の1)、『現代と文化』、140、2020、pp.33-53

福吉勝男、ヘーゲル——福沢諭吉の思想的同一と分岐、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.9-23

増山浩人、世界への接近 —— カントにおける相互性のカテゴリーの役割（シンポジウム カテゴリー論としてのヘーゲル論理学）、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.86-98

松井隆幸、ソフォクレス『アンティゴネー』のヘーゲル『精神現象学』による解釈について —— アンティゴネーの有責性をめぐって、日本独文学会東海支部編『ドイツ文学研究』、52、2020、pp.83-95

三重野清顕、カテゴリーとは何であるか、いかにして導出されるのか —— カテゴリー論としてのヘーゲル論理学（シンポジウム カテゴリー論としてのヘーゲル論理学）、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.73-85

嶺岸佑亮、無限なものを語るということ——論理学と形而上学の間をめぐって、『東北哲

学会年報』、36、2020、pp.75 - 87

山口誠一、ヘーゲル『精神現象学』「序説」第46節~第50節の解明、法政大学文学部編『法政大学文学部紀要』、81、2020、pp.1-14

山口誠一、ヘーゲル『精神現象学』「序説」第51節~第54節の解明、法政大学文学部編『法政大学文学部紀要』、82、2020、pp.19-32

山城むつみ、連続する問題(第14回)一瞬のヘーゲル、『すばる』、42(10)、2020、pp.266-276

山蔦真之、和辻の「個人」論 —— カント、ヘーゲルとの比較を中心に(日本倫理学会第70回大会 共通課題「和辻倫理学の可能性」報告)、日本倫理学会編『倫理学年報』、69、2020、pp.19-29

悠季真理、哲学・論理学研究余滴(9)ヘーゲル『哲学史』をふまえてアリストテレスの"思弁"への端緒につく過程を考える(3)、日本弁証法論理学研究会編『学城 —— 学問への道』、19、2020、pp.61-79

### C 外国語研究書・論文の日本語訳

ケヴィン・アンダーソン、ヘーゲル弁証法とレーニンの哲学的両義性 —— 西欧マルクス主義への可能性の探求(小原耕一、竹下睿駿、高屋正一 訳)、社会評論社、2020

イヴァン・A・イリーン、神と人間の具体性についての教説としてのヘーゲル哲学(永井健晴訳)、大東文化大学法政学会編『大東法学』(政治学科創設30周年記念号)、29(2)=74、2020、pp.137-182

イヴァン・A・イリーン、神と人間の具体性についての教説としてのヘーゲル哲学(永井健晴訳)、大東文化大学法政学会編『大東法学』、30(1)=75、2020、pp.209-292

フリードリッヒ・エンゲルス、フォイエルバッハ論(牧野紀之訳註) —— ヘーゲル哲学と唯物論(鶏鳴OD選書)、鶏鳴出版、2020

ミヒャエル・クビチエール、刑法学におけるヘーゲルの遺産 19世紀におけるヘーゲル学派(2)(飯島暢・川口浩一編訳、山下裕樹訳)、関西大学法学会編『関西大学法学論集』、69(5)、2020、pp.1085-1104

アレクサンドル・コイレ、イエーナのヘーゲル —— 近年出版の「イエーナ体系構想」について(小原拓磨訳)、『知のトポス —— 世界の視点』、15、2020、pp.55-145

カール=フリードリッヒ・シュトゥッケンベルク、刑法学におけるヘーゲルの遺産 19世紀におけるヘーゲル学派(3)(飯島暢・川口浩一編訳、西村哲也訳)、関西大学法学会編『関西大学法学論集』、70(4)、2020、pp.1031-1060

ヘルマン・シュミッツ、ヘーゲル弁証法の諸原理としての無限判断と推論(その3)『個性の思想家としてのヘーゲル』より(鈴木恒範訳)、ヘーゲル論理学研究会編『ヘーゲル論理学研究』、26、2020、pp.49-69

### III ヘーゲルに関する研究文献の書評

飯泉佑介、評論（合評会 嶺岸佑亮著『ヘーゲル 主体性の哲学 —— 〈自己であること〉の本質への問い』）、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.147-150

大河内泰樹、宥和の政治哲学 —— 藤原保信『ヘーゲルの政治哲学(著作集第2巻)』への時期外れの書評、『政治哲学』、27、2020、pp.62-77

川瀬和也、評論（合評会 嶺岸佑亮著『ヘーゲル 主体性の哲学 —— 〈自己であること〉の本質への問い』）、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.143-146

後藤正英、書評 下田和宣著『宗教史の哲学 —— 後期ヘーゲルの迂回路』、宗教哲学会編『宗教哲学研究』、37、2020、pp.131-134

島崎隆、書評 ケヴィン・アンダーソン著『ヘーゲル弁証法とレーニンの哲学的両義性 —— 西欧マルクス主義への可能性の探求』、季報『唯物論研究』刊行会編『唯物論研究』、152、2020、pp.158-164

平子友長、書評 ケヴィン・アンダーソン『ヘーゲルの弁証法とレーニンの哲学的両義性』（小原耕一、竹下睿騏、高屋正一 訳）、『唯物論』、94、2020、pp.135-137

山脇雅夫、評論（合評会 嶺岸佑亮著『ヘーゲル 主体性の哲学 —— 〈自己であること〉の本質への問い』）、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.151-154

### IV ヘーゲル研究の動向紹介

### V ヘーゲルに関する文献目録

裕智樹・山脇雅夫、ヘーゲル日本語文献目録(2019年)、日本ヘーゲル学会編集委員会編『ヘーゲル哲学研究』、26、2020、pp.9-14

### VI ヘーゲルに関する研究資料

### VII ヘーゲルに関する研究発表

飯泉佑介、『精神現象学』の「現象」性格——ヘーゲル哲学を通じたガブリエル新実在論

の理論的・実践的射程の検討、唯物論研究協会第 43 回研究大会、オンライン、2020 年 11 月 8 日

稲谷龍彦、シンポジウム『『法哲学』刊行 200 周年 現代刑法論とヘーゲル——ヘーゲル『法哲学』のアクチュアリティ』、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライン、2020 年 12 月 12 日

大河内泰樹、多元的存在論・プラグマティズム・観念論 ガブリエルから（ブランダムを經由して）ヘーゲルの哲学体系の多元論的解釈へ、哲学オンラインセミナー、オンライン、2020 年 6 月 20 日

大河内泰樹、統治性の制度としてのポリツァイ、第 3 回日中哲学会議「ヘーゲルとマルクス」、オンライン、2020 年 8 月 29 日

大橋基、シンポジウム『『法哲学』刊行 200 周年 現代刑法論とヘーゲル——ヘーゲル『法哲学』のアクチュアリティ』、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライン、2020 年 12 月 12 日

岡崎佑香、ヘーゲル哲学における性、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライン、2020 年 12 月 12 日

岡崎龍、ヘーゲルと社会構築主義——バトラーのヘーゲル解釈と美しき魂をめぐって、唯物論研究協会第 43 回研究大会、オンライン、2020 年 11 月 8 日

神山伸弘、シンポジウム『『法哲学』刊行 200 周年 現代刑法論とヘーゲル——ヘーゲル『法哲学』のアクチュアリティ』、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライン、2020 年 12 月 12 日

木本周平、概念形成論史の中の「具体的普遍」、日本哲学会第 79 回臨時大会(2020 年日本大学大会)、オンライン、2020 年 9 月 20 日

久富峻介、ヘーゲルの悲劇論における近代的主体の生成のモチーフについて、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライン、2020 年 12 月 13 日

久保陽一、「超越論的論理学」の批判的継承——ヘーゲル論理学における「あるところのもの」の把握（ヘーゲル生誕 250 年記念講演）、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライン、2020 年 12 月 13 日

鈴木亮三、ギリシア悲劇の「キリスト教的色合い」について——新版美学講義録群からヘーゲルのギリシア悲劇解釈を考察する、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライン、2020 年 12 月 13 日

中村悠人、シンポジウム『『法哲学』刊行 200 周年 現代刑法論とヘーゲル——ヘーゲル『法哲学』のアクチュアリティ』、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライン、2020 年 12 月 12 日

堀永哲史、カントの超越論的真理とヘーゲルの思考と存在との同一性としての真理、日本ヘーゲル学会第 31 回研究大会（ヘーゲル法哲学 200 年&生誕 250 年記念大会）、オンライ

ㄥ、2020年12月12日

Shunsuke KUDOMI, Kunst und Religion in den Jenaer Jahren Hegels—— Aus Sicht der systematischen Funktion der Kunst, Hosei University, Department of Philosophy, Seminar for Graduate Students—— From Classical German Philosophy to Japanese Contemporary Thinking, July 28 2020

Yusuke Iizumi, Hegel's Phenomenology in 1807 and its position in the Encyclopedia-System—— From the perspective of historical Genesis of Hegelian Science, Hosei University, Department of Philosophy, Seminar for Graduate Students—— From Classical German Philosophy to Japanese Contemporary Thinking, September 21 2020